

全日制
(週4日・6カ月)

2012年2月生
申込受付中

校正技能検定試験〈中級〉〈上級〉対応講座
校正者養成専門コース



いま校正者にもとめられるもの

校正は、出版物、印刷物、Webの情報などの間違いをなくして信頼性を高め、さらに読みやすい、使いやすいものことに貢献する重要な仕事です。

書き手さえうっかり見過ごしてしまうような間違いも、校正者は見逃しません。それは校正者が、著者や編集者とは違う目で点検をするからです。

校正は、読んで間違いの箇所を見つけるだけの仕事のように思われることもありますが、1字ごと、1つのことばごとに、正しいか、妥当か判断していく根気のいる仕事です。何をチェックしなくてはならないか、予め知識がなければ見つけられない間違いもあります。冷静な目で点検ができ、そのためのチェックのポイントをよく知っていることが必要になります。

*

今日、校正者には幅広い対応力が必要とされています。

校正は、原稿と、完成した形の見本である校正刷を照合して、原稿のとおりになっているかを確認することが基本ですが、校正刷に集中して点検し、さまざまな問題点を指摘する「素読み校正」が重視される傾向があります。

「素読み校正」では、入力時の文字の間違いといった単純なものから、著者の思い違いなど記述内容に関するもの、表記の不統一など、幅広く問題点を見つけていくことが求められます。そのため校正者は、基礎的な国語力・常識をしっかりとつとともに、間違いが起きやすいパターンを理解し、また適切に問題点を指摘するために、資料にあたって裏づけをとる習慣も身につけなければなりません。

また、印刷物を作成するプロセスや仕事の仕組みが現場によってさまざまになっており、校正に求められることも現場によって違ってきます。要求されている仕事内容を理解し、無駄なく適切な校正をするためには、編集やDTPの作業を知っていることも必要になります。

*

「全日制 校正者養成専門コース」は、従来の校正専門コースにない、幅広い学習と数多くの訓練によって、こうした現状に対応できる校正者を養成するために設けられました。



実力のある校正者になるために

校正者養成専門コースの特長

*

校正者に必要な編集の知識などが総合的に学べる

編集やデザイン、DTPなど、校正者にも理解しておくことが必要とされる技能もあわせて学習します。校正力の向上が図れるとともに、より幅広く仕事のできる校正者としての評価を得られます。

さまざまなジャンルの校正に対応できる

一般企業・官公庁などさまざまな場所で、ますます需要が高まる校正の力。習得した技能を、出版の世界だけでなく広く役立てることができます。

最短で校正検定〈中級〉・〈上級〉が取得できるカリキュラム

校正検定試験合格のために、〈中級〉・〈上級〉出題範囲の訓練時間を、他のどのコースよりも多く設けています。校正検定〈上級〉試験にも自信をもって臨むことができます。

校正検定〈初級〉認定*

校正検定〈中級〉受験資格*

* 8ページ参照

就職にむけた支援をします

個別面談を行い就職を支援するほか、講義は現在活躍中の校正者の方にご担当いただき、実務についての話を聞くなど、校正者として働くイメージを明確にしていきます。

就職相談室登録資格*

* 6ページ参照

もっとも充実した校正 訓練のカリキュラム

専門の校正者養成コースとして、現在の校正者に求められる技能を深く・広く学ぶことができます。

講師

五十嵐美那子(いがらしみなこ) 編集・校正者, 本校講師
 高虫佳伸(たかむしよしのぶ) 校正者, 本校講師
 境田稔信(さかいだとしのぶ) 校正者, 本校講師
 菅原祥子(すがはらしょうこ) 編集・校正者, 本校講師
 外池孝男(とのかいけたかお) 編集者, 本校講師
 *このほか本校の編集, 校正, パソコン・DTP担当講師。

校正基礎科目
校正専門科目
校正に必要な編集科目

*講義内容・科目名は変更することがあります。

校正技能を身につける

1 校正の実技訓練を重視し、実務能力の向上をはかります。

また、個人指導により、問題点や弱点を解消します。

■ 科目名

校正の基本
縦組校正Ⅰ(原稿引合せ)
縦組校正Ⅱ(赤字引合せ)
横組校正Ⅰ(原稿引合せ・赤字引合せ)

2 日本語表記、特に漢字の知識は業務には欠かせません。

校正の仕事と関連させて、これらの知識を学びます。

■ 科目名

用字用語知識Ⅰ・Ⅱ
辞書の使い方
漢字の読み書き練習

3 校正の次の3つの仕事のうち、今日重要度が増す「(2)素読み」に力を入れて訓練します。

(1)原稿引合せ 指定された体裁の確認、原稿との1字1字の照合または原稿で修正された箇所の逐一の照合

(2)素読み 校正刷だけに集中して点検する

■ 科目名

縦組校正Ⅲ(素読み校正)
横組校正Ⅱ(素読み校正)

4 実際の仕事に応用できるように、ジャンル別の知識や注意点を学びます。

各媒体の現場で活躍する講師陣に、校正者としての対応力はどうのように身につけるのかのヒントをうかがいます。

■ 科目名

雑誌の校正
企業印刷物の校正
欧文校正

5 検定試験対策として、試験問題を使った訓練を行います。

■ 科目名

〈中級〉検定訓練
〈上級〉検定訓練



校正者に必要な編集知識を得る

6 校正と関連が深い、原稿編集、組方、印刷などを学習します。

■ 科目名

本づくりの基礎知識
原稿編集
印刷文字の知識
本の組方ルール
著作権知識
見学実習(印刷会社, 校正プロダクション)

校正の基本 全2回

校正の作業の流れを知り、簡単な実習を通して校正記号の使い方を覚えます。

- 校正記号の意味を知り、正確に覚える
- 校正作業の流れを理解する

辞書の使い方 全2回

辞書は校正作業において重要な道具の一つです。辞書の特徴や使い方を覚えることは、業務には欠かせません。

横組校正Ⅱ 全10回

横組の印刷物の「素読み校正」を中心に実習を行います。また、縦組の本の中でも横組にされること多い索引や、本文以外の要素の校正も学習します。

欧文校正 全2回

欧文の組方ルールを知り、引用文や参考文献の校正、一般企業の文書などの確認にも役立つ力をつけます。

- 欧文の校正・組方ルール・フォント

原稿編集 全8回

校正の前段階として行われる原稿整理について学びます。原稿を、本や雑誌として読みやすく整える作業です。

縦組校正Ⅰ 全8回

原稿と校正刷を引き比べて確認する原稿引合せを中心に、縦組の校正の実習をします。

- 手書き原稿・データ原稿の引合せ
- 文字の大きさや位置など体裁の確認

漢字の読み書き練習 全8回

誤植を見つけるには漢字の知識が必須です。また、校正の赤字は、誤植を直す人に正しく伝わるよう丁寧に書く必要があります。読み書き練習を繰り返し、漢字への意識を高めます。

〈中級〉検定訓練 全8回

校正技能検定〈中級〉に向け、過去の試験問題などを使用して実践的な訓練を重ねます。

- 縦組原稿引合せ／横組原稿引合せ／データ入稿引合せ／学科

企業印刷物の校正 全4回

約款や取扱説明書、パンフレットなどの企業印刷物は誤植の責任も重く、確実な校正が望まれます。企業印刷物のポイントを確認します。

本の組方ルール 全8回

印刷物の体裁上のルールを学びます。

- 行の組方
- ページの組方
- 雑誌の組方

横組校正Ⅰ 全8回

横組の印刷物の校正は、縦組と違ったポイントもあります。原稿引合せを中心に実習をします。

- 横組の組方ルールの確認
- 理工書など専門書の校正

縦組校正Ⅱ 全2回

1回目の校正で入った赤字と、その赤字を直した校正刷を引き合わせる「赤字引合せ」の作業を実習します。

- 初校と再校／赤字引合せのやり方

〈上級〉検定訓練 全6回

校正技能検定〈上級〉試験に対応した、さらに高度な校正の訓練を重ねます。

- 縦組原稿引合せ／横組原稿引合せ／再校赤字引合せ・素読み／学科

本づくりの基礎知識 全8回

本の各部の名称から、編集、印刷製本までの、本や出版に関わる基本知識を身につけます。

- 本、編集(原稿整理・原稿指定)の知識
- 印刷・製本の知識

校正者のパソコン・DTP知識 全8回

実際にパソコンを使いながら、印刷物のデータがコンピュータによってどのようにつくられているのか理解し、誤植の起こりやすいポイントについて確認します。

用字用語知識Ⅰ・Ⅱ 全12回

Ⅰ日本語表記の基準となる規則をおさえ、校正で点検すべき事柄を学びます。Ⅱ校正者としての「本を見る目」「言葉」に対する関心などを、実際に本を読みながら探っていきます。

縦組校正Ⅲ 全10回

データ入稿による校正の作業ポイントや、校正刷だけを校正者の目で点検し、単純な文字の間違いや事実関係の誤り、体裁などを総合的に確認する「素読み校正」を学びます。

雑誌の校正 全4回

本文の段組やタイトル・リードなどの構成が複雑で、図版や写真も多用されている雑誌の校正のポイントを学びます。

- 文字・図版・写真／カラー校正

印刷文字の知識 全6回

印刷物の体裁を確認する上での基本となる、印刷文字についての知識を習得します。

- 印刷文字の大きさ・書体
- 字詰め・行送り

著作権知識 全2回

出版に関わる者として知っておくべき、著作権などの法的知識について学びます。

- 企画と出版契約／刊行後の留意点
- インターネットと出版ビジネス

デジタルに対応する

7 出版物の多くはコンピュータを利用して作成されています。原稿段階での文字処理だけでなく、デジタル画像原稿の扱い、さらに組版(DTP)の基礎も体験します。

■ 科目名

校正者のパソコン・DTP知識

校正者として仕事に就く——就職 相談室が求職活動をサポート

校正は実力が重視される仕事です。十分な訓練を積み、検定に合格して実力を示せば、自信をもって就職活動ができます。

日本エディタースクールには校正・編集の技能を求める求人が随時寄せられています。2009年4月から2011年3月まで総求人数のべ259社552名のうち、42%にあたる89社230名を校正者が占めています。

在学中は個別に面談を行い、それぞれの方の希望に沿ってサポートしていきます。修了後は就職相談室に登録でき、求人情報の送付を受け、就職活動をすることができます。

校正の求人社から

下記のほかに編集プロダクション・印刷会社・デザイン会社・PR誌/Web/DTP制作会社・広告代理店などからの校正の求人もあります。

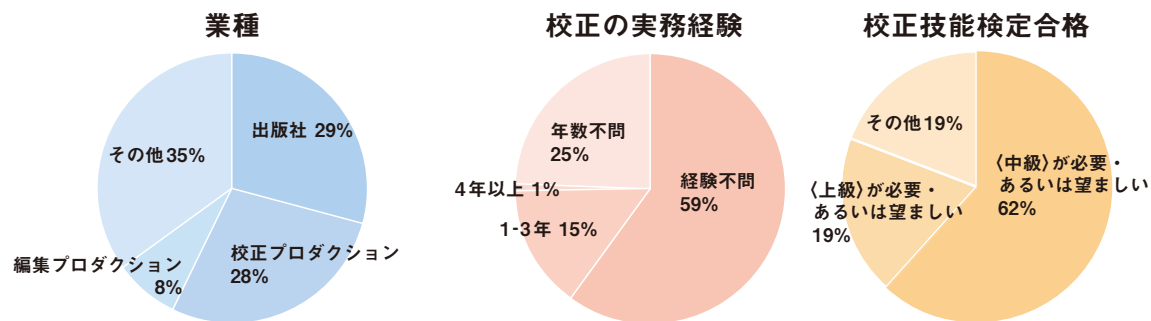
- | | | |
|--|--|--|
| ■出版社
サイエンス社
たいせい
ハーレクイン
ベネッセコーポレーション
医学図書出版
河出書房新社
文化学園 文化出版局
視覚デザイン研究所
日本図書文化協会
集英社
新潮社 図書編集室
青幻舎
中央公論新社
創美社 | 早稲田大学出版部
第一出版
朝日新聞総合サービス
東洋経済新報社
日経ホーム出版社
平凡社
現代企画
勁草書房
菁柿堂

■校正プロダクション
ヴェリタ
デイ・アンド・ワイ
デイクション
麦秋社 | 文字工房燦光
編集工房 きたやま
くすのき舎
パーパーハウス

■その他
ビーワークス
ローソンチケット
市進
帝国データバンクビジネスサービス
日経メディアマーケティング
日本IBMUE(ユーザーエクスペリエンス)
デザインセンター
NHKエンタープライズ

<small>*公開可能な求人社様のみ掲載しています。</small> |
|--|--|--|

校正の仕事の特徴——本校への校正の求人統計から



出版社が最も多く29%、校正専門のプロダクションが28%、編集プロダクションが8%です。その他、DTP制作会社や印刷会社、出版関係以外の企業や団体からの求人もあり、その業務内容はマニュアル・テキスト・学術論文・旅行パンフレット・カタログ・報告書・会報誌などとなっています。校正の技能が広く求められていることがわかります。

求人社の条件としては、校正の経験については不問が圧倒的に多く59%。これらの求人では、エディタースクールで学んだという実績が条件になっていることとなります。次いで、年数は問わないが経験が必要という求人が25%です。

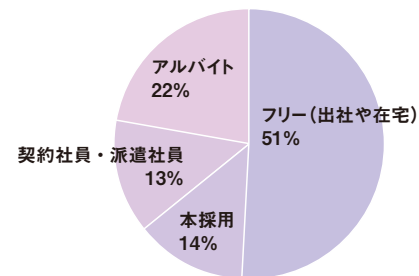
検定試験については、〈中級〉が必要、あるいは望ましい、という求人は62%。検定試験合格が就職には有利に働きます。〈上級〉は19%と少なくなっていますが、〈上級〉合格者の方は就職も早く決まる傾向にあります。

さまざまな求人社が校正の技能を求めています

校正の仕事内容をスクール求人社からピックアップしました。

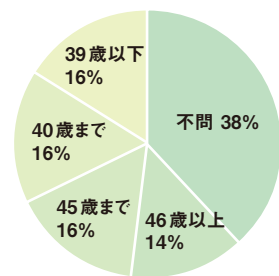
- 食品・健康専門書の校正、資料整理。(出版社)
- 自宅で校正作業。学術書・教養書が中心のためある程度の知識・興味が必要。(出版社)
- 新創刊雑誌の校正。主に素読みと初校・再校との引合せ、用字用語の表記ルールが守られているかどうかを含めた確認。(出版社)
- 25~30代主婦向け生活情報誌の校正・校閲。(校正プロダクション)
- 学習教材の校正が中心の仕事。指定原稿と1字1句の「原稿引合せ」がしっかりと出来る方、素読み校正で、誤字・脱字に加え、日本語の文章の誤りが指摘できる方。(編集プロダクション)
- カatalog・チラシ・PR誌等の校正を担当。引合せ能力と共に出版物や印刷工程の基礎的理解も必要。(編集プロダクション)
- 専門家が執筆したWeb上の記事の校正。また簡単な校閲業務。(Web制作会社)
- オペレーターが入力したチラシ・パンフレット等のデータ校正。カラーカンパ校正(原稿・校正紙との照合作業)。(印刷会社)

雇用形態



校正は、編集などと比べて、社外のフリーの校正者が仕事をする事の多い職種で、約半数の51%がフリー(出社や在宅)の募集です。本採用は14%、契約社員・派遣社員は13%、アルバイトが22%となっています。

年齢上限



実力が問われる校正は、他の職種の求人にならば年齢の制限は少なく、38%は不問です。年齢条件のある求人では46歳以上が14%、45歳まで・40歳まで・39歳以下がともに16%となっています。

校正技能検定

校正検定には〈上級〉〈中級〉〈初級〉の三段階があります。〈初級〉は規定のコース修了により、〈中級〉と〈上級〉は、それぞれ縦組・横組の実技試験と、校正・編集・製作に関する知識や漢字・表記について問う学科試験により認定されます。

〈中級〉の検定は「指示された方針に従って、比較的単純な組版についての初校原稿引合せと通読作業を遂行する能力」を審査します。基本的な校正の技能が身につけていることを確認する試験です。年2回7月と12月に実施されます。

その上の段階の〈上級〉は、〈中級〉合格者のみに受験資格があります。「指示された方針に従って、比較的複雑な組版についての初校原稿引合せ及び再校赤字引合せ・素読みの作業を遂行する能力を審査する」試験で、年1回3月に実施されます。合格すれば、適切な判断力のある校正者として自信をもって就職活動ができます。

※校正検定の段階を示す呼称は、2011年4月より〈三級〉を〈上級〉、〈四級〉を〈中級〉、〈五級〉を〈初級〉と変更いたしました。(第130回までを旧呼称で実施)

校正技能検定〈中級〉試験

■実技試験 出題範囲

- 縦組 初校原稿引合せ
- 横組 初校原稿引合せ
- 縦組 データ入稿の初校引合せと通読作業

■学科試験 出題範囲

- 校正作業に必要な知識
編集・製作に関する基本知識、校正作業に関する知識
- 用字用語に関する知識
漢字、仮名づかいに関する知識

■対応科目

縦組校正Ⅰ(原稿引合せ)	〈中級〉検定訓練
横組校正Ⅰ(原稿引合せ)	
縦組校正Ⅱ(赤字引合せ)	
縦組校正Ⅲ(素読み校正)	
本づくりの基礎知識	印刷文字の知識
原稿編集	本の組方ルール
用字用語知識Ⅰ・Ⅱ	
漢字の読み書き練習	

校正技能検定〈上級〉試験

■実技試験 出題範囲

- 縦組 初校原稿引合せ
- 横組 初校原稿引合せ
- 縦組 赤字引合せ・素読み

■学科試験 出題範囲

- 校正作業に必要な知識
編集・製作に関する基本知識、校正作業に関する知識
- 用字用語に関する知識
漢字、仮名づかい、欧字・記号に関する知識

■対応科目

〈上級〉検定訓練	
横組校正Ⅱ(素読み校正)	
縦組校正Ⅱ(赤字引合せ)	
縦組校正Ⅲ(素読み校正)	
本づくりの基礎知識	印刷文字の知識
原稿編集	本の組方ルール
用字用語知識Ⅰ・Ⅱ	漢字の読み書き練習
欧文校正	

第22期 校正技能検定委員

五十嵐美那子 生活思想社代表、編集・校正者
 居郷英司 居郷デザイン工房代表、編集者・デザイナー
 井上 巴 フリー校正者
 丑山佐千男 元光文社編集管理局校閲部
 小松 勉 フリー校正者
 境田稔信 フリー校正者
 高浜禎一郎 筑摩書房編集局校閲室部長

高虫佳伸 フリー校正者
 寺島敏郎 元岩波書店取締役校正部長
 外池孝男 日本エディタースクール出版部、校正記号検討委員会委員
 中村 幹 印刷学会出版部代表
 野村保恵 あるふぁ企画代表、校正記号検討委員会委員長
 宮崎 英 フリー校正者
 矢彦孝彦 元新潮社校閲部部長、校正記号検討委員会委員

検定合格者からのことば

「奥の深い仕事」

田中祥子(たなか さちこ)さん 第118回〈三級〉合格 フリー校正者

校正・編集プロダクションに属して、出版社に出向したり、それとは別に自宅でも書籍や雑誌の校正・校閲を行っています。

校正の仕事をしていていちばんおもしろいのは、調べ物をしながら、自分が知らなかった分野や言葉などを次々と知る喜び。いい文章に出会ったときに勉強になることなどです。うれしいのは、疑問出しが採用されたとき、そして書籍や雑誌として形を成して世に出る前に、編集者のかたの次(ぐらい)に校正刷を拜見できる事です。

出版社や編集者の方によってかなり違いがあって、細かい部分までエンピツ出しすることを喜んで下さる編集者もいらっしゃいますが、余計なことは書かなくてよい、細かいことは気にしない、というタイプの方もいらっしゃいます。

〈上級〉試験は、横組の試験が難しく、時間もギリギリで見直しができなかったのが、2度目に挑戦したときは、一度見で済ませる、という心構えで臨みました。上級合格、と履歴書などに書くと、ご存知の方にはそれなりの反応が返ってきます。

最近では校正者に、かなり深い部分まで校正・校閲力、ときに編集力が必要とされることが多く、特に、素読みの力が重要になっています。「言葉」に敏感でいること、世の中のあらゆる分野の事柄を見聞きし感度を高めておくこと、良質の本を沢山読むこと、辞書や漢字の勉強で語彙をふやすこと、自分の得意分野をさらに強化すること、などが必要だと思います。情報の正誤の確認にも気をつけなくてはなりません。

いろいろな意味で苦勞が多い仕事ですが、飽和点(これで終わり、という頂点)がなく、非常に奥が深い、一生かかってもやり終えることのない仕事だと思っているので本当に探究心は尽きないです。

(校正フレックスコース、出版編集コース、編集実務コース(DTPデザイン)修了)

「積極的な校正者に」

野澤宏樹(のざわ ひろき)さん 第118回〈三級〉合格 (株)地域新聞社 編集部校正校閲課

フリーペーパーの校正校閲の仕事をしています。上がってきた原稿の引き合わせ、素読みはもちろん、広告校正の場合は、景品表示法・薬事法その他法規に照らし合わせて問題のある表現になっていないかといった、コンプライアンスの面でも注意をします。週刊の媒体なので、処理量に対応したスピードと臨機応変さが要求されます。リライトの仕事もするので、自分なりに原稿をより良いものにする機会もあります。

校正の基本をしっかりと理解していることはとても大事なことで、学校での勉強が仕事の上でも役立っています。〈上級〉検定試験に向けては問題集を購入して、反復して学習しました。時間制限を設けて、緊張感を高めていきました。目に見える資格としてアピールできたことが、就職でも活かしたいと思います。それ以上に「〈上級〉を取得できた」という自信を持つことができたことが一番大きく、その自信が面接などでの成功に繋がったのではないのでしょうか。

これからの校正者は広範な知識を持つことはもちろん大事ですが、もっと積極的な仕事をするのが求められると思います。引き合わせを超えて、「ここはこういう風にした方がいいのではないか」という意見をより強く打ち出していく必要があるでしょう。(夜間 総合コース修了)

校正者養成専門コース

募集要項・申込方法

募集要項

開講日 2012年2月20日(月)
 定員 30名
 期間 6カ月
 時間 月～木曜(週4日)
 10:30～15:00
 (昼休み50分・休憩10分含む)
 入学資格 高校卒業(含卒業見込み)
 入学受付 申込先着順
 提出書類 入学申込書
 学費 下記をご覧ください

体験校正1日教室のご案内

■校正とはどんな仕事かが体験できます。校正の手順を理解し、正確な校正記号を使って1字1字点検する実習を行います。具体的なイメージを持って学習を始めたい方におすすめいたします。【通学版】は月1回開催。当日はご希望の方にスクールの講座内容や就職状況についての説明もいたします。【通信版】は随時お申込みいただけます。
 ■本セミナーを受講された方が、全日制総合科や常設校正講座にお申込みの場合、学費が割引になります。詳細は別紙案内またはウェブサイトをご覧ください。

学校説明会と入学相談のご案内

■学校説明会は、月1回実施しています。当日は、出版界の概要と出版の仕事、本校の求人状況、カリキュラムなどについて詳しくご説明いたします。テキスト・教材・実習作品の展示もご覧いただけます。
 ■実施日と詳細・参加申込は、本校のウェブサイトでご確認ください。案内書を請求された方には、説明会のお知らせを同封しております。
 ■入学相談・学校訪問は月曜から金曜までお受けしています。事前に希望日時を電話・ファクス・メールでご連絡ください。

学費(税込)				別 途	テキスト・編集用具代 *開講日にお支払い
納入方法	申込時納入額	入学金	受講料		
一括	430,000円	内 訳 30,000円	400,000円	8,500円(予定)	・新編 校正技術 ・標準 校正必携 第8版 ・校正練習帳①(タテ組編) ・校正練習帳②(ヨコ組編) ・印刷文字スケールセット
分割	260,000円		430,000円 初回230,000円+残金50,000円×4 または 初回230,000円+残金200,000円(最終講義日まで)		

*印刷文字スケールは「アメリカンポイント」「DTPポイント」「級数」の3枚。
 *分割納入の場合は「分納願」の提出が必要です。事務局宛にご請求ください。
 *テキスト・編集用具をすでにお持ちの場合は、その分の代金は不要です。

申込方法

お申込みは下記のいずれかの方法でお願いいたします。正式な申込受付は、原則として学費納入時といたします。ご入金確認後、開講日のご案内をお送り、またはお渡しいたします。(テキストは開講日にお渡しします)

来校によるお申込み

日本エディタースクール3階にて、お申込手続きを行っていただきます。入学申込書と学費(申込時納入額)をお持ちください。

ウェブサイトからのお申込み

<http://www.editor.co.jp/> にアクセスし、「校正者養成専門コース」ページの申込フォームからお申込みください。担当者からの確認のメール内容にそって学費(申込時納入額)のご入金をお願いいたします。

郵送によるお申込み

入学申込書を本校宛にお送りいただき、学費(申込時納入額)のご入金をお願いいたします。

学費納入 銀行振込・郵便振替または開講日前にご持参ください。
 [銀行振込]

・三井住友銀行飯田橋支店 普通 2893121
 ・横浜銀行東京支店 普通 1267595
 ・ゆうちょ銀行〇一九店(ゼロイチキョウ店) 当座 0008265
 口座名=日本エディタースクール(ニホンエディタースクール)

[郵便振替]

口座番号=00140-7-8265
 加入者名=日本エディタースクール

宛先 日本エディタースクール 電話03-3263-5891
 〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-4-6

受付事務 平日10:30～20:00(土曜～15:00、日曜・祝日は業務を休みます)

校正者養成専門コース入学申込書

コ ー ス		校正者養成専門コース	番 号	年 月 日受付 窓口・郵送 / 日発送	
氏 名	(ふりがな)			写真貼付箇所 3×4 cm	
					男・女
生年 月日	(西 暦)	年 月 日生	歳		
現 住 所	〒				入 学 金・免 円
	都道 府県			受 講 料 全・分 円	
	電話 () - 緊急時 連絡可・不可			テ キ ス ト 代 円	
	携帯 () - 緊急時 連絡可・不可			合 計 円	
メールアドレス ()				経 験 年 数	
最 終 学 歴	(西 暦)	年 月	高 校 卒 業 見 込 専 門 学 校 年 在 学 短 大 ・ 大 学 卒 業 中 退	パソコン 年 (OS Win・Mac・その他) インターネット使用経験 有・無 メール使用経験 有・無 Office 使用経験 有・無 その他のソフト () 年 () 年 実務経験・出版関係 年 (職種) 実務経験・他業種 年	
職 業	勤 務 先				
	所 在 地	〒			
	職 種 業 種	電話 () - <input type="checkbox"/> 出版関連 (<input type="checkbox"/> 出版社 <input type="checkbox"/> 編集プロダクション <input type="checkbox"/> 新聞社 <input type="checkbox"/> PR 誌・DTP・Web 制作 <input type="checkbox"/> デザイン事務所 <input type="checkbox"/> 印刷・製本 <input type="checkbox"/> その他 ()) <input type="checkbox"/> その他企業 <input type="checkbox"/> 公務員・団体 <input type="checkbox"/> フリー <input type="checkbox"/> 無職 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 主婦 <input type="checkbox"/> その他 ())			
受 講 の 目 的	具体的にお書きください			本スクール受講歴	
受 講 料	<input type="checkbox"/> 自己負担 <input type="checkbox"/> 会社負担 <input type="checkbox"/> その他 () / 全納・分納			あ る な い 年 期 コース 教室 年 期 コース 教室	
	<input type="checkbox"/> 持参 <input type="checkbox"/> 銀行振込 <input type="checkbox"/> 郵便振替 (月 日支払済・予定)				
何 で 知 り ま し た か こ の 講 座 を	<input type="checkbox"/> ケイコとマナブ <input type="checkbox"/> 通信講座大事典 <input type="checkbox"/> ケイコとマナブ.net			本スクール学校説明会	
	<input type="checkbox"/> 「SELECT STORE」のサイト <input type="checkbox"/> その他のリクルート雑誌等			参加した(年 月)	
	<input type="checkbox"/> マスコミ就職読本 <input type="checkbox"/> 『マス読』メールマガジン <input type="checkbox"/> スクール出版物			校正 1 日体験教室	
	<input type="checkbox"/> スクールのサイト <input type="checkbox"/> ほかのサイト ()) <input type="checkbox"/> 知人 <input type="checkbox"/> 受講歴のある知人 <input type="checkbox"/> 案内書・DM・チラシ <input type="checkbox"/> 会社派遣 <input type="checkbox"/> 資格の本・ガイドブック (書名:)) <input type="checkbox"/> その他 ())			参加した(年 月) 通学版・通信版	

●太枠内の欄のみ記入してください。